

平成 28 年度 第 1 回教育部座談会報告書

平成 28 年度教育部座談会を開催しましたので、以下にご報告させていただきます。

テーマ：子育て世代PTの生涯学習について

仕事と子育てを両立するための職場環境作りについて考える

<村山地区>

日 時：平成 28 年 10 月 2 日（日） 10 時 00 分～12 時 00 分

会 場：天童市立天童中部公民館 2 階和室

参加者：9 名、子供 7 名、部員 5 名 合計 21 名

スタッフ：伊豆田愛（吉岡病院）、山口広樹（篠田総合病院）、
佐藤有加（日本海総合病院酒田医療センター）、今野珠美（北村山公立病院）、
鈴木健太（青空訪問看護事業所）

<庄内地区>

日 時：平成 28 年 10 月 23 日（日） 10 時 00 分～12 時 00 分

会 場：出羽庄内国際村 鶴岡市国際交流センター 2 階和室

参加者：6 名、子供 11 名、部員 6 名 合計 23 名

スタッフ：伊豆田愛（吉岡病院）、廣瀬志布（湯田川温泉リハビリテーション病院）、
五十嵐光（鶴岡協立病院）、栗野ひろみ（介護老人保健施設みゆきの丘）、
今野珠美（北村山公立病院）、鈴木健太（青空訪問看護事業所）

内 容：①平成 27 年 6 月に実施したアンケート結果の報告

②テーマに沿った意見交換

- ・仕事と育児の両立、職場環境について
- ・学習の継続について

昨年同様、和室に長テーブルと座布団のみ準備し、座談会を行いました。脇で子供たちが走り回っている状況にもスタッフが慣れ、スムーズな進行で研修を行う事が出来ました。アンケート結果の報告や意見交換は 30 分程度で区切り、長めの休憩をはさむ様に配慮しましたが、参加者の皆さんは休憩時間にも意見交換を行っていました。

今回は職場を管理する立場の方にも参加いただき、施設代表者と代表者以外の方に分かれてフリーディスカッションを行いました。各グループで様々な意見交換が行われ、どちらの発表もとても考えさせられる内容でした。内容の一部を掲載いたしますので、参考にしていただくと幸いです。

教育部では、会員の皆様が自己研鑽を継続できる仕組みづくりを検討しています。今後もこのような座談会を継続し、育児世代の会員が子連れで気軽に研修会に参加できるような環境作りを行い、その一環として託児所を設けた研修会を開催できればと考えています。

【施設代表者の意見】

・各施設の現状と悩み

各施設ともに育児休暇は積極的に活用されており、男性の育児休暇も確認できました。1, 2名の育児者であると、「お互い様」という関係で職場内の理解も得られており、大きな困乱もきたしていない職場がある一方、若い世代のスタッフが多い職場では、1年間に3部門合わせて7名の産休育休者があり、仕事に支障をきたしているとの報告がありました。また、子育て世代のスタッフが多いところは、子供の体調不良等や学校行事による急な欠勤も多く、他のスタッフに仕事の負担が増え、不公平感が生じているという報告もありました。特に男性スタッフや若いスタッフへの負担がどうしても多くなるようです。施設管理者としての立場からは、急に休まれることが多くなったり、時間外勤務ができない等の理由から責任ある仕事を任せられなくなってしまう現状があるようです。また、子供の病気や行事などすべて母親だけが休まなければならないのか、夫や家族の協力を得られないのか、などの疑問も抱えているようです。協力者をいかに確保するか、民間の子育てサポート、病児保育を利用できるよう準備したりすることもできるのではないかと意見も聞かれています。どうしても子供優先での生活を考えるのであれば、割り切って3年間育児休暇を取るかパート勤務にし、その後落ち着いたら復帰をするという働き方の形態を変えることも一つの選択肢ではないかと意見があがっていました。

・仕事と子育ての両立について

社会的に男女参画促進があり、仕事と子育てを両立できるような環境や制度を整え、職場内での意識改革をしていこうという流れになっています。ワークライフバランスという言葉も多く使われています。しかし、特に専門職、技術者として質の担保をしながらの両立は決して生易しいものではなく、個人個人、ある程度の覚悟が必要な気がします。サラリーマン化してしまっているスタッフも見受けられますが、理学療法士としての生涯学習の重要性を認識してもらい、子育て中でも自分がやれる範囲・時間の中で積極的に職場内で行動していただきたいという希望がありました。もちろん、十分に認識して行動している会員はおります。

・院内勉強会、研修会参加について

時間外で残れないスタッフも多いので、時間内に勉強会を設けている施設もありました。また、夕方は残れないので、朝の20~30分の短い時間を使って伝達講習や症例検討会をしている職場もあり、各職場いろいろ試行錯誤しているようでした。土日開催の研修会には365日勤務体制、子供の行事参加等で遠い地区まではなかなか参加できない会員が増えている感じがしました。そんな意味では、各施設内での勉強会や支部単位での活動が今後の重要なポイントではないかと感じました。もちろん勉強会や研修会だけが学習ではありませんので、各個人個人が、興味のある分野で自己学習を継続してくれることも大事です。そういった意味でも施設毎に生涯学習の意義を再確認し士気を高める、まとめていく責任者の役割も大きいと認識いたしました。

【施設代表者以外の意見】

・現状や悩みに関して

現実的に院外での研修会参加は厳しい状況となっており、出産後から学会等への参加は出来ずにいるということである。また、夫や祖父母に預けての参加の場合もあるが、お互いの日程調整や体調管理が上手くいかないこともある。やはり、子育て世代となると優先にすべき順位は子供が一番先になるが、決して理学療法士として自己研鑽に目を向けていないわけではなく、現時点でのすべきこととして割り切って子育て優先という考えも致しかたないという意見も出た。学校行事は大抵土曜日に多かったり、興味のある研修会となると丸一日や遠方での開催となり、スケジュール的に拘束時間が長くなり、参加出来ないとの意見もあった。中には夫婦共にリハビリテーション職や医療職という方もおり、夫婦間での情報共有や学会や研修会参加への理解はあるとの話も出ていた。他には、院内の理学療法業務のみに関わらず、部会や委員会等の組織の仕事や地域の仕事等もしなければならず、時間外の業務(朝早めの出勤や残業)が多くなり、子供や家族との時間が持たなくて大変であるという日常仕事の悩みも出た。

・各施設の取り組みに関して

施設代表者以外の意見としては、残業がない部署への配属や子供の体調不良時の急な休み等、配慮して頂いている部分があり管理者や他スタッフに対してありがたい、助かっているといった感謝の思いがあるという話があった。院内研修に関しては、それぞれの施設によってさまざまな方法がある。具体的には、定期的なりハビリテーション科研修会を時間外に開催している施設、週一回の頻度で勤務時間内に研修会を実施している施設、勤務時間内に対象者への実践を含めたケーススタディーを実施している施設など、各施設によってさまざまな取り組みを行っていることがわかった。一方で、一日のノルマ単位が設定されている施設もあり、対象者への関わり以外にもカンファレンスへの参加や情報提供書やその他の書類の作成等に時間を費やすため、なかなか院内の研修は行えていない施設もあった。

・研修会参加について

半日の研修会であればスケジュール調整が可能のため参加しやすい、産休・育休後の復帰のための基礎的な内容の研修会があるとありがたい等の意見があった。今後の展望については、託児所付きの学会や研修会への参加に関して賛否意見はあるが、他県では一部取り入れているところもあるため、託児室があると参加しやすい、参加しても良いかもしれない、子育て世代 PT の増加に伴い少しずつそういった時代になってくる、等の前向きな意見があった。一方で、県学会であっても会場への移動に時間が掛かったり、一日限りの託児となると不安要素があり、子連れでの参加は抵抗があるとの意見もあった。しかしながら、マイナス意見の中にも、今後 SNS での子育て世代 PT のネットワークが広まったり、こういった座談会の実績を積み重ねることにより、学会での託児所の設置は現実的になってくるだろうといった将来性のある意見が得られた。

<研修風景>



<研修会に参加した感想>

『子育て世代の座談会』に参加させて頂きました。子連れOKとあっても、やはりグズったらどうしよう不安でしたが、そんな不安はすぐに無用の物となりました。大広間ではしゃぐ子供達、抱っこでママと過ごす子、お菓子をつまみに来る子、トイレと呼ばれても平気でした。出産後、研修会は敷居が高くなりすっかり遠ざかっていましたが、こんな雰囲気の中で気楽にお喋りすることで、同志はたくさんいるんだと励まされたと思います。是非また参加したいです。子供がいても学びやすい環境づくりを願う小さな輪が、いつか大きな輪になるように…教育部スタッフの方々、ありがとうございました。

(吉岡病院 芦埜千草)

「子育て世代 PT の生涯教育について考える」座談会に初めて参加させていただきました。妊娠出産子育ては女性にとっては一大イベントであり、多くは日々の生活と子育てで精一杯、勉強する時間なんてとてもじゃないけど持てない、というのが本音だと思います。産休育休で長期間臨床を離れてしまう事によって、みんなに置いていかれてしまっているという疎外感や復職してちゃんと働けるだろうかという不安感、復帰してからの走り抜けるような時間、その中で勉強へのモチベーションを高めるという事が中々難しい状況にも置かれると思います。自分もそうでしたので、子育てしながらも学べる機会を持って欲しいという配慮は大変ありがたいことですし、必要な事でもあると強く感じました。

今回、子育て中の同じような環境にいる PT の方々と直接話をする事ができて、自分だけではないんだという安心感が持てましたし、一緒に頑張っていけたらいいなというモチベーションにもなりました。知りたいこと、学びたい事、いまさら聞けないことがたくさんあるのに、子育て中だから学べないという思いはみなさん持っていました。仕事の都合や家庭環境により時間外の勉強会や土日の研修会に参加したいのに参加できない PT はたくさんいると思います。子育てしながらでも学べる機会として、職場での勉強会等をはじめとし、県士会の部員としても、家事育児の都合をつけて参加しやすい近場で短時間の研修会等の企画をしていくことも必要であると感じました。

また、管理者側からの考えも聞く事ができました。確かに妊娠中も産後復帰してからも大変な事は確かですが、周りからの配慮や支援を当たり前だと思わず、常に仲間に感謝の気持ちを持ちながら、自分ができる範囲の仕事は頑張るという姿勢は本当に大切な事だなと感じました。

さらにこの座談会には、子どもを連れて参加させていただきました。先輩 PT のお子さんもいらしたので、お互いの話し声も聞こえないかと思われるほどの騒ぎっぷりで大変ご迷惑をおかけして申し訳なく思いましたが、目の届く範囲で子どもを連れて参加できるのは大変良かったと思います。うちの子の騒がしさを見て、子どもはみんなそうなんだと安心していただけた方もいらしたようですので、複雑ですがそれはそれで良かったと思います。

教育部の方々にもこのような機会を作っていただけたおかげで、同じ思いを抱えるママさん PT たちとの接点を持つ事ができ、子どもを連れて学ぶ事ができ、また新たな考え方ができるようになり、本当に良かったです。山形でも託児所がついていたり、子育て中でも参加しやすい研修会が増えるよう期待し、自分もまた頑張っていきたいと思います。

(介護老人保健施設メルヘン 庄司優喜子)

今回、初めて育児に関する研修会に参加しました。和室という環境や先輩方の和やかな雰囲気により、6年目と経験年数の浅い私も非常に話易い会だと感じました。また、同期にも子育て者が殆どいないため、仕事関係の方と育児についての話題を話す機会はなく、非常にいい機会でした。

話し合いでは、他職場の現状を知り自分と比較することで、自分が恵まれた環境で仕事ができていると感じ、より職場への感謝の気持ちや意欲がわきました。生涯学習に関しては、経験年数の浅い私にとって、育児をしながら日々学習していくことの難しさや、同期や後輩の成長に遅れをとっていると感じたことで、PTを継続しようか非常に悩んだことがありました。先輩方の経験してきたことや考えを知り、参考したいと思いました。管理者側の意見も知ることができ、自分が育児をしながら仕事をしていくなかで、周囲のスタッフの協力の下成り立っていると改めて感じ、私も還元していきたいと思いました。普段言えずに思っていたことを話すことができ、自身のストレス軽減にも繋がりました。

今回の研修で得たことを今後の業務や自己研鑽に繋げていきたいと思います。今後もこのような会がありましたら、積極的に参加したいと思います。

お忙しい中、遠方から来て頂き、また託児をして下さり、ありがとうございました。

(湯田川温泉リハビリテーション病院 荒木小百合)

子育てや家事に追われる毎日ですが患者様(利用者様)の前では理学療法士であり適切な関わりを行っていきたい。そのためには、研修会等に参加し自己研鑽することが重要だと感じていました。しかし、実際は仕事と家庭、自己研鑽をうまく両立させることが出来ず、葛藤や焦りがありました。懇親会に参加して悩みを共有出来たことや子育ての先輩である先生方のお話を聞くことが出来、気持ちの整理をすることが出来ました。物事に優先順位を付け時間を作り研修会等に参加し、理学療法士として成長していきたいと思います。また家族への感謝を忘れないようにしたいと改めて思いました。とても楽しく、有意義な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

(湯田川温泉リハビリテーション病院 齋藤沙緒里)